

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800036	
法人名	有限会社 北嶋	
事業所名	グループホームきたじま苑	
所在地	山梨県笛吹市八代町北1616-1	
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が普通の日常生活が送れるよう支援をしています。ご本人の残存能力を見極め、家事参加できるようにしています。またカラオケ内にあるコンテンツの様々な体操を行い、筋力低下を防止しています。年二回春と秋にお祭りを開催し、地域住民と触れ合えるようにしています。施設での看取りにも積極的にいけるよう、家族や医療機関と協力関係を築き、医療行為が必要でない限りここでの看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の中央に位置し、地元の神社、支所、体育館、図書館、保育園等近所の住民の往来できる場にある。施設からは北側に果樹園が見渡せ、四季折々の風景が楽しめる。事業所内には利用者が作成した千支のロールペーパーモザイクが飾られ、落ち着いた雰囲気がかもし出されている。利用者の状況に応じて特殊浴槽の設備を敷地内に増設した。利用者は家族の協力を得ながら外出の機会は多く、入居前のかかりつけ医を受診して適切な医療を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームきたじま苑		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに基本理念を刑事しています。また事務所には各職員の目標を掲げています。月に一度の全体ミーティングで実践につなげています。	リビングに基本理念を刑事しています。また事務所には各職員の目標を掲げています。月に一度の全体ミーティングで実践につなげています。	基本理念をオープン時から掲げて職員の目の届く場所に掲示している。理念に基づく目標を職員一人ひとりが掲げて事務所に貼って実践し、振り返りを行っている。また月1回のミーティング時に共有して「気づき、変化」等を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全事業所合同で春には感謝祭、秋には親睦会を行い利用者・利用者家族・地域住民に参加して頂き交流している。地域のイベントにも参加できる方には参加していただいています。近所の保育園児が年に二回ほど来苑してくれます。	全事業所合同で春には感謝祭、秋には親睦会を行い利用者・利用者家族・地域住民に参加して頂き交流している。地域のイベントにも参加できる方には参加していただいています。近所の保育園児が年に二回ほど来苑してくれます。	全事業所のイベントの際には社協からテントをかりて駐車場に家族、地域住民と共に楽しんでいる。トランポリンを中庭に設置して子供達も参加している。地域の「ふるさと祭り」保育園児との触れ合い、中学生の職場体験、家族の友達の尺八の訪問等積極的に地域との触れ合う機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症についての資料を配り理解して頂けるようにしています。	運営推進会議では認知症についての資料を配り理解して頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度必ず行っています。様々な議題について議論を行い、そこで委員から出た意見を参考にしてサービス向上につなげています。	二か月に一度必ず行っています。様々な議題について議論を行い、そこで委員から出た意見を参考にしてサービス向上につなげています。	会議では事業所からの報告、参加メンバーからは議題以外にも質問等多くでる。「看取り」「避難訓練」などに関する近所の参加者からの意見は「気づき」に繋がっている。「災害時の避難を受け入れられるか」の要望には災害時用の食料品、備蓄等準備をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加していただき貴重な意見をいただいています。また日ごろから何かあれば相談に乗っていただける関係作りを努めています。年4回の介護相談員の来訪もあります。	運営推進会議には必ず参加していただき貴重な意見をもらっている。また日ごろから何かあれば相談に乗ってもらえるような関係作りを努めている。年4回の介護相談員の来訪もあります。	毎回の推進会議に参加して事業所の実情やサービスの取り組みの理解や支援を受けている。避難訓練時「夜間訓練の実施」や食事メニューの指導、食材について市からの提案等、また事業所から「グループホームを警察の見守りのコースに入れて欲しい」という要望を伝え、入れてもらうようにした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間は玄関に施錠しています。身体拘束廃止委員会を三か月に一度開催し、その内容を職員に周知し実践しています。	防犯のため夜間は玄関に施錠しています。身体拘束廃止委員会を三か月に一度開催し、その内容を職員に周知し実践しています。	月1回ミーティング時スピーチロックの話し合いをし、言葉使いを検討し職員間で共有している。利用者と目線を合わせて柔らかい対応を心掛け、職員同士でも気付いた時は指摘している。また、日中は玄関に施錠せず、利用者が外に出た際には職員と一緒に中庭や駐車場に出て気分転換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、月に一度の全体ミーティングで周知し実践につなげています。また入浴時に身体チェックを行っています。	虐待防止マニュアルを作成し、月に一度の全体ミーティングで周知し実践につなげています。また入浴時に身体チェックを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加して全体ミーティングで周知しています。	管理者が研修に参加して全体ミーティングで周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等が理解・納得できるように努め、疑問や不安な点について話を聞き、十分に説明を行い理解を得ています。	利用者やご家族等が理解・納得できるように努め、疑問や不安な点について話を聞き、十分に説明を行い理解を得ています。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームきたじま苑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは随時。ご家族等からは面会等の際に利用者の状況を報告した後意見や要望等を聞き、職員全体で話し合い可能であれば改善に努めています。	利用者からは随時。ご家族等からは面会等の際に利用者の状況を報告した後意見や要望等を聞き、職員全体で話し合い可能であれば改善に努めています。	運営推進会議の際に家族からの意見も出る。職員の名前が分からないという要望があり、写真と名前を付けて各ユニット玄関に貼った。家族には月1回のお便りや面会時に意見など積極的に聞ける機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の全体ミーティングで職員間の意見交換ができるようにしています。また毎日の朝のミーティングでも職員の提案を受けてその都度改善するようにしています。	月に一回の全体ミーティングで職員間の意見交換ができるようにしています。また毎日の朝のミーティングでも職員の提案を受けてその都度改善するようにしています。	全体ミーティングで職員からの意見・要望が出る。食事のメニューの内容の改善や工夫、掃除の仕方の提案、特殊浴槽の希望など出され、意見は充分に検討しながら活かしている。特殊浴槽は庭の一角に新しく作った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ごとに勤務時間の変更を行い、それぞれの体力なども考慮しています。一人一人が目標を持ち、働き甲斐のある職場環境になるように努めています。	職員ごとに勤務時間の変更を行い、それぞれの体力なども考慮しています。一人一人が目標を持ち、働き甲斐のある職場環境になるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修や資格取得など積極的に参加して頂きスキルアップを図っています。	各種研修や資格取得など積極的に参加して頂きスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入させていただき、各種研修や施設見学に参加し良い点を自施設で活かせるようにしています。	県のグループホーム協会に加入させていただき、各種研修や施設見学に参加し良い点を自施設で活かせるようにしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と十分に話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活がしたいのかを聞き、安心して生活できる環境を作ることに努めています。	ご本人と十分に話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活がしたいのかを聞き、安心して生活できる環境を作ることに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等と十分な話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。	ご家族等と十分な話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族等と十分な話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。	ご家族等と十分な話し合いを持って、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がどこまでできるのかを見極め、なるべくご本人ができることはご本人にしてもらい、できないことをサポートし生活を共にしていくよう努めています。	ご本人がどこまでできるのかを見極め、なるべくご本人ができることはご本人にしてもらい、できないことをサポートし生活を共にしていくよう努めています。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームきたじま苑		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際や毎月の手紙などミーティングで話し合われたご本人の身体的・精神的な状況の変化を報告し、ともにご本人を支えて行けるよう努めています。	面会に来られた際や毎月の手紙などミーティングで話し合われたご本人の身体的・精神的な状況の変化を報告し、ともにご本人を支えて行けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が昔住んでいた近所の方が面会に来られたり、行きつけの美容院やお店などに行けるようご家族と協力して支援に努めています。中には身内のご不幸があった場合、葬儀に参列される方もいます。	ご本人が昔住んでいた近所の方が面会に来られたり、行きつけの美容院やお店などに行けるようご家族と協力して支援に努めています。中には身内のご不幸があった場合、葬儀に参列される方もいます。	近所の方や友人、親戚の方等の面会がある。家族と一緒に食事に行ったり、墓参りや、入居前に活動していた集まりに参加する利用者もいる。時には家に泊まったり家族の家に行き来する利用者、以前の職場に行き来する等の利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えなど行い、お互いの相性や個性を尊重してより良い生活ができるよう支援しています。	席替えなど行い、お互いの相性や個性を尊重してより良い生活ができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族等、または施設などから要望があれば相談や支援に努めています。	ご本人やご家族等、または施設などから要望があれば相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの暮らし方の鬼謀や以降に対してできるだけ対応しています。思いを伝えるのが困難な方に関しては、ご家族等と検討したり、普段の声掛け時の表情・態度などから読み取れるようにしています。	それぞれの暮らし方の鬼謀や以降に対してできるだけ対応しています。思いを伝えるのが困難な方に関しては、ご家族等と検討したり、普段の声掛け時の表情・態度などから読み取れるようにしています。	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりに声をかけて思いや希望を把握している。食べ物や希望、室温の設定、寝具や衣類等の要望が多い。コミュニケーションが困難な場合は本人の状態、表情を見て対応したり、家族からの情報を得て、連絡帳やミーティング等で話し合い、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人へのアセスメントやご家族等から話を聞いています。また以前に関わりのあった施設・病院に情報を聞き把握に努めています。	ご本人へのアセスメントやご家族等から話を聞いています。また以前に関わりのあった施設・病院に情報を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	月に一度の全体ミーティングなどでご本人の身体的・精神的な問題点を探り把握に努めています。	月に一度の全体ミーティングなどでご本人の身体的・精神的な問題点を探り把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族等の要望や意見を十分に話し合い、ご本人にとっての問題や課題を考え、6か月～1年で介護計画の見直しをしています。また面会の際にもご本人の様子を伝え連携しています。	ご本人・ご家族等の要望や意見を十分に話し合い、ご本人にとっての問題や課題を考え、6か月～1年で介護計画の見直しをしています。また面会の際にもご本人の様子を伝え連携しています。	入居時家族や本人から思いや希望を聞いている。日頃の関わりの中で職員が意見交換し、現状に合ったプランを作成している。6か月から1年でモニタリングしているが、身体状況など変化が見られた時はその都度状態に合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者からの申し送り、朝の朝礼、夜勤者への申し送りをし、ご利用者の状況を職員が確認できるように対応しています。何か変わった出来事や発言などがあれば個人記録やミーティングノートに書き込むようにしています。	夜勤者からの申し送り、朝の朝礼、夜勤者への申し送りをし、ご利用者の状況を職員が確認できるように対応しています。何か変わった出来事や発言などがあれば個人記録やミーティングノートに書き込むようにしています。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームきたじま苑		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの職員の経験を活かし、それぞれの利用者に合わせて柔軟な対応が行えるような職場環境に努めています。	それぞれの職員の経験を活かし、それぞれの利用者に合わせて柔軟な対応が行えるような職場環境に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児が来苑して、歌やお遊戯を披露してくれることがあります。また地域での行事には参加できる方のみ対応しています。	地域の保育園児が来苑して、歌やお遊戯を披露してくれることがあります。また地域での行事には参加できる方のみ対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはそれぞれの主治医を持っています。看取りに対応ができない場合は変更をお願いしています。受診時には看護師サマリーやバイタル表を渡し、ご本人にあった適切な医療が受けられるように努めています。ご家族が対応できないときは施設での対応をしています。	基本的にはそれぞれの主治医を持っています。看取りに対応ができない場合は変更をお願いしています。受診時には看護師サマリーやバイタル表を渡し、ご本人にあった適切な医療が受けられるように努めています。ご家族が対応できないときは施設での対応をしています。	基本的には、利用前からのかかりつけ医を受診し、家族が同行しているが出来ない場合は職員が代行している。受診時には看護師サマリー等を持参して状況を伝え、薬は家族が貰って届けてくれる。かかりつけ医が訪問診療してくれる利用者もいる。その他、週1回の訪問歯科があり口腔ケアに対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師が利用者の健康状態をチェックし、緊急時には24時間連絡が取れるため指示を仰ぎ対応しています。	非常勤ではあるが看護師が利用者の健康状態をチェックし、緊急時には24時間連絡が取れるため指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設サマリーの提供を行い、スムーズな情報提供ができるように努めています。また退院前にはカンファレンスを行い、ご本人の状況を把握して介護に役立っています。	入院時には施設サマリーの提供を行い、スムーズな情報提供ができるように努めています。また退院前にはカンファレンスを行い、ご本人の状況を把握して介護に役立っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時・ケア会議の際に説明を行い同意を得ています。ご家族等が看取りを希望した場合には主治医と相談した上で対応するよう努めています。主治医が対応困難な場合には変更をお願いしています。	契約時・ケア会議の際に説明を行い同意を得ています。ご家族等が看取りを希望した場合には主治医と相談した上で対応するよう努めています。主治医が対応困難な場合には変更をお願いしています。	入居時看取りに付いて説明、話し合いをしているが変化があった場合家族間の思いが違う等の場合もあり、その都度対応している。終末期に入った場合かかりつけに医に相談して看取りのできる医療機関に情報提供をする支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、AEDの講習などを行っています。また利用者ごとに救急搬送時情報提供書を作り、既往歴や服薬状況が分かるようにしています。	緊急時の対応マニュアル、AEDの講習などを行っています。また利用者ごとに救急搬送時情報提供書を作り、既往歴や服薬状況が分かるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	適宜火災を想定して避難訓練を行っています。一時避難所を駐車場と決め、必ず駐車場まで避難いただいている。また地震や台風などにも備えられるように食料や水の備蓄を行っています。	適宜火災を想定して避難訓練を行っています。一時避難所を駐車場と決め、必ず駐車場まで避難いただいている。また地震や台風などにも備えられるように食料や水の備蓄を行っています。	火災を想定して年2回避難誘導、通報システムで消防署への連絡訓練をしている。水消火器の使い方や、車椅子で駐車場への誘導を行なっている。法人やご近所からの応援、協力を依頼している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人一人一人に合った言葉かけ・態度で接するよう努めています。また、親しみを込め苗字ではなく下の名前と呼びかけることがあります。	その人一人一人に合った言葉かけ・態度で接するよう努めています。また、親しみを込め苗字ではなく下の名前と呼びかけることがあります。	利用者に向けた言葉かけやトーンを心掛けている。女性の場合は苗字でなく名前と呼びかける利用者もいる。部屋に入る時はノックして、話しかける際目線を合わせる等の配慮をしている。トイレに入る際は戸ばらとカーテンを使用してプライバシーの確保を徹底するよう努めている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームきたじま苑		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような環境づくりを心掛けています。できない方にはご本人に合った手助けを職員が行えるように努めています。	ご本人が自己決定できるような環境づくりを心掛けています。できない方にはご本人に合った手助けを職員が行えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のグループホームとしての流れはありますが、テレビを見たい人・昼寝をしたい人などご本人が自己決定できるような環境づくりをしています。	毎日のグループホームとしての流れはありますが、テレビを見たい人・昼寝をしたい人などご本人が自己決定できるような環境づくりをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人がその時着たい服を身に着けていただいています。重度化されている方に対してはご本人の負担を考えてご家族等と相談して決めています。可能であればご家族等にお願いし美容院の利用や衣服・化粧品品の購入も支援しています。	ご本人がその時着たい服を身に着けていただいています。重度化されている方に対してはご本人の負担を考えてご家族等と相談して決めています。可能であればご家族等にお願いし美容院の利用や衣服・化粧品品の購入も支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本は管理栄養士が考えたメニューですが、アレンジしてご利用者の希望を取り入れながら献立を考えています。できる方には調理にも参加していただいています。	基本は管理栄養士が考えたメニューですが、アレンジしてご利用者の希望を取り入れながら献立を考えています。できる方には調理にも参加していただいています。	食材を職員と一緒に買いに行く、野菜等を切る、食器を洗う・拭くなど利用者の希望や個々の力を活かした支援をしている。家族から桃・ブドウ・野菜など頂く事もある。誕生日には、希望の回転ずしやファミリーレストランに職員や家族と一緒に食事に行ったり、家族が持ってきて部屋で楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で相談をしご利用者それぞれの健康状態や持病・嚥下状態などを考慮し、量・バランス・大きさ・水分量を考えています。トロミやペーストにも必要であれば対応しています。	職員間で相談をしご利用者それぞれの健康状態や持病・嚥下状態などを考慮し、量・バランス・大きさ・水分量を考えています。トロミやペーストにも必要であれば対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夕食後には入れ歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めています。残歯がある方には歯磨きを行っていただきます。ご自分でできない場合は職員が行っています。必要な方には口腔ケア用ウエットティッシュを使用している方もいます。	毎夕食後には入れ歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めています。残歯がある方には歯磨きを行っていただきます。ご自分でできない場合は職員が行っています。必要な方には口腔ケア用ウエットティッシュを使用している方もいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し時間ごとの誘導を行い、なるべく失敗しないでトイレでの排泄ができるように支援しています。オムツの方は時間での確認・交換をしています。	排泄チェック表を活用し時間ごとの誘導を行い、なるべく失敗しないでトイレでの排泄ができるように支援しています。オムツの方は時間での確認・交換をしています。	二部屋に二か所の間隔でトイレがあり、夜間はトイレの前に立つと感知式の照明がつくので利用者は安心して使用できる。排泄チェック表を活用し個々の利用者に応じた支援をしている。病院から退院後チェック表を利用してオムツから紙パンツとパットになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂取して頂けるように声掛けを行っています。体操などを行っていますが、便秘気味の方は主治医に相談して服薬や洗腸で対応しています。	水分をしっかりと摂取して頂けるように声掛けを行っています。体操などを行っていますが、便秘気味の方は主治医に相談して服薬や洗腸で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	入浴日の設定はありますが、出来るだけ自由に入浴できる環境作りを心掛けています。重度化されている方は駐車場横に新しく作った特殊浴を使用していただいています。	入浴日の設定はありますが、出来るだけ自由に入浴できる環境作りを心掛けています。重度化されている方は駐車場横に新しく作った特殊浴を使用していただいています。	希望に沿った入浴や同性介護に配慮している。入浴を拒否する場合は「お風呂」から「温泉」に言い換えて気分を変えたり、仲の良い二人で入浴する等の工夫をしている。本人用のシャンプー・ボディソープを使ったり、保湿剤を塗ったり、化粧水や化粧品をすする利用者もいて入浴を楽しんでいる。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームきたじま苑		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間は決まっていますが、ほとんどの方が20時頃には居室に戻り休まれています。睡眠導入剤を処方され飲まれている方もいます。	基本的には就寝時間は決まっていますが、ほとんどの方が20時頃には居室に戻り休まれています。睡眠導入剤を処方され飲まれている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルにファイリングしています。お薬手帳を作り活用しています。服薬変更があった場合にはミーティングノートに書き込み周知しています。病状変化には看護師と相談し主治医に伝えるようにしています。	処方箋を個人ファイルにファイリングしています。お薬手帳を作り活用しています。服薬変更があった場合にはミーティングノートに書き込み周知しています。病状変化には看護師と相談し主治医に伝えるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることを見極め、調理・掃除・洗濯・洗濯物のたたみなどをして頂いています。また中庭には自動販売機があり、いつでも買えるようになっています。	ご本人のできることを見極め、調理・掃除・洗濯・洗濯物のたたみなどをして頂いています。また中庭には自動販売機があり、いつでも買えるようになっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすを使っている方が多いため、全員での外出は困難になっていますが、誕生月には職員と一緒に外出に出かけるようにしています。また近所の神社には初詣でや桜の花見などにもなるべく出かけるようにしています。	車いすを使っている方が多いため、全員での外出は困難になっていますが、誕生月には職員と一緒に外出に出かけるようにしています。また近所の神社には初詣でや桜の花見などにもなるべく出かけるようにしています。	天気の良い日や暖かいときは出来るだけ外気に当たる支援を行っている。中庭、駐車場が広いので地域の住民が道を通る際の触れ合いが出来る。地域のグラウンドや神社周辺では桜の木や桃畑の花見等ができ、積極的に外に出て気分転換をしている。家族の協力が出かける事も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族等と相談してできる方には所持していただいています。できない方のお金はこちらで預かり管理しています。	ご家族等と相談してできる方には所持していただいています。できない方のお金はこちらで預かり管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族等や友人などに電話や手紙を出したいとの要望にはできるだけ対応しています。	ご家族等や友人などに電話や手紙を出したいとの要望にはできるだけ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち心地よく使っていただけるよう努めています。温度調節や採光などはご利用者と相談して決めています。また季節の花などをフロアに飾るよう努めています。	清潔を保ち心地よく使っていただけるよう努めています。温度調節や採光などはご利用者と相談して決めています。また季節の花などをフロアに飾るよう努めています。	利用者が創った巻絵が飾られ、キッチン是对面で職員と利用者が会話や見守りしながら野菜を切ったり、器を洗う等々々に行っている。風呂場は各ユニットと隣接した特殊浴があって状態に合った支援をしている。スロープから中庭に出てバーベキューやお茶が楽しめる。果樹園や神社、四季折々の匂い、風、光が心地よく落ち着いた場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでの席は決まっていますが、リビングフロアにはソファを置き、気兼ねなく使えるようにしています。	テーブルでの席は決まっていますが、リビングフロアにはソファを置き、気兼ねなく使えるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた筆筒や仏壇・TVなどを持ち込んで使用されている方もいます。配置についてはご家族等と相談しています。	以前から使用していた筆筒や仏壇・TVなどを持ち込んで使用されている方もいます。配置についてはご家族等と相談しています。	部屋の入口には表札と花の絵が貼られて本人が確認できる工夫がされている。入居前に使っていた物品や鏡の前には個々の使う日用品が置かれ、生活感があり、その人らしい個性のある部屋づくりがされている。毎日職員と共に清掃し室内は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札を貼りご自分の部屋だとわかるようにしています。居室内にはできるだけ余計なものを置かないようにし、安全な歩行や移動ができるよう努めています。	居室入り口には表札を貼りご自分の部屋だとわかるようにしています。居室内にはできるだけ余計なものを置かないようにし、安全な歩行や移動ができるよう努めています。		